

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 掛川市立大須賀中学校 】

1 実践テーマ	①・II・III・IV・⑦（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：2年生 クラス：3クラス（2年A組、2年B組、2年C組） 人数：96名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間『生き方学習』） ② 行事名（ ） ③ その他（部活動『ソフトボール部交流会』） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	地元掛川市出身のオリンピック・ソフトボール日本代表選手である山崎早紀選手による講演・部活動交流会を通して、スポーツの楽しさ・素晴らしさを再認識したり、スポーツを通して心身共に成長することを実感したりする。
5 取組内容	単元名：『夢を語る会』で思いを伝えよう 【事前学習】 第1時：「夢」とは何だろう？ 第2時：山崎早紀選手に聞いてみたいことを考えよう 【当日】 第3時：山崎早紀選手講演会 演題『ソフトボールを通じて学んだこと』 【事後学習】 第4時：講演を聴いて学んだことや感じたこと 第5時：『夢を語る会』に向けて自分の思いを書こう 第6時：『夢を語る会』に向けた練習会 第7時：『夢を語る会』（授業参観会)
6 主な成果	・オリンピックに出場したいという強い思いが、夢を叶えるための原動力となっていることを知り、スポーツの持つ力や魅力を実感することができた。 ・夢を叶えるために、目標を立て、それに向かって努力をし続けてきた山崎選手の生き方から、簡単にあきらめてはいけぬ不屈の精神を学ぶことができた。 ・部活動交流会では、バッティングにおけるスイングスピードの速さやインパクトの強さを肌で感じ、トップレベルの技術を体感することができた。

	<p>生徒の感想からは、「小学校2年生でソフトボールと出会い、ずっと目標を持ち続けてきたことがすごいと思い、勇気をもらった気がする」「コロナ禍で行われたオリンピック大会をテレビで見ながら、スポーツの素晴らしさを感じていたので、山崎選手の心をここまで突き動かすスポーツの力を実感した」「山崎選手は掛川市初の金メダリストとなり、自分とはかけ離れた存在だと思っていたが、数々の挫折や失敗を乗り越えてきたと知り、身近な存在に思えた。自分も、山崎選手のように、夢をもち、諦めずに努力できる人間になりたい」「交流会で、山崎選手の珠や打球の速さに驚いた。素振りの音が違った。教えてもらったことを生かして、これから練習をもっと頑張りたい。」といった感想が書かれていた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>2年生は、『夢を語る会』と題し、進路実現に向けた思いや決意、具体的に取り組んでいきたいことなどを2月の授業参観会で発表する。そのために、6月には『生き方講座』として地域の職業人から働くことの意義・やりがいについて聴き、10月には職場体験学習を3日間行ってきた。</p> <p>また、生徒には、進路を考える際、『夢をもつことの大切さ』や『目標に向かって努力すること』に気付いてほしいと考えた。そこで、山崎選手には、夢を叶えたときの喜びだけでなく、挫折や苦悩の日々、失敗経験などを盛り込んで講演していただくことを事前にお願ひした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で行われた講演会は、蜜を避けるために全校生徒を対象とせず、1学年のみ対象となってしまった。</li> <li>・パラリンピック教育について触れることができず、共生社会について考える機会とすることができなかった。</li> <li>・年度途中にこの事業に申込をしたため、前年度中に計画し、年間計画に位置づけておく必要があった。</li> </ul>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	